

1. 特に効果的であり改善に資した事例

F. その他

③積極的な情報提供体制の確立

### ③積極的な情報提供体制の確立

#### 《人社系》

##### ●女子美術大学美術研究科芸術文化専攻

###### 「表現空間創出による高度人材育成と職域開発」の事例

(具体的に何を実施したのか)

芸術文化系の大学院の主体的活動のひとつの範としてとらえてきたアートセンターに関する調査研究の過程でえられた情報を、学内のみならず学外、海外に対しても発信することができた。出版、アーカイヴ、展示を通しての発信だけでなく、海外大学（国立ソウル総合芸術大学）での講演、継続的シンポジウム（CCD）など、多様なかたちで行い、そのためのノウハウの蓄積もあり、現在も継続中である。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

提供される研究情報については、その対象者ごとに、柔軟にその方法を設計するよう努めた。研究者向けの、ビデオ・アーカイヴ（OCA）の場合は、本体以外に、書籍化を行い、エントリー用の情報提供を行うだけでなく、国際展（越後妻有大地の芸術祭）での展示にも取り組み、不特定多数に対しての海路に着いても考察を行った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

情報提供そのものの効果についての判断には、いましばらく時間が必要だが、あらゆる活動のプロセスや結果が、情報になりうるということについての意識が高くなり、ドキュメンテーションの制作自体が、アート活動の欠くことのできない要素であるという認識が定着しつつある。こうした意識は、当然それに伴い、常に、そのアウトプットの形態についても適切なものを模索するという波及効果がある。

##### ●立命館大学国際関係研究科国際関係学専攻

###### 「国際協力の即戦力となる人材育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

プログラムの実施状況や、「国際協力の即戦力」を目指す院生・学生への情報提供を行うウェブサイト及びブックレットを、日・英両言語で公開・発行した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

これらのウェブサイトでは、プログラムが実施した様々なセミナーや人材育成の取り組みについて紹介し、これらの成果を共有できるものとなるよう、心がけた。

ブックレットにおいては、院生の研究課題が、国際協力という人材育成上の重点領域にとどまらず分散する傾向にあり、院生間のピアラーニングの契機が削がれがちである本研究科にあって、研究テーマから履修科目、進路にいたる院生の選択を重点領域へと緩やかに方向づけ動機づける効果を期して、本プログラムの趣旨・活動を紹介する小冊子を2年

1. 特に効果的であり改善に資した事例

F. その他

③積極的な情報提供体制の確立

度目に作成し(A5版38頁)、本研究科への新規入学生を中心に配布してきた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

ブックレットは、左頁に日本語で、右頁に英語で同内容の文書を掲載する形をとっているため、日本人院生だけでなく、留学生にとっても、本研究科における教育・研究の経緯・方向性を理解・共有するうえで重要な助けになった。また、ウェブサイトは、プログラム終了後もさらに充実、強化され、本研究科の教育目的、内容や国際関係学に関する情報を適切に提供している。

《理工農系》

●九州大学人間環境学府都市共生デザイン専攻

「アジア都市問題を解くハビタット工学教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

一般には、年度報告書の作成・配布を通して成果を広報することが多いが、本プログラムの年度報告書はデータ記録を中心とした学内配布に留め、取組み過程で得られた知見や学習成果を学生参加型の国際ジャーナル刊行(学術誌、情報誌)によって国内外に広く普及する情報発信方法を開発した。また、取組みの中で培った海外大学とのネットワークや産業界とのネットワークを活かし、国際連携コンソーシアム及び産学官連携コンソーシアムを構築した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

博士後期課程の大学院生をRAに雇用し、その雇用条件として、1)ピアレビュー国際学術誌(年2回)への投稿、2)国際情報誌(年2回)の企画、執筆、編集に参画、3)研究プロジェクト企画立案プロセスへの参画を設定し、新研究テーマ発掘能力や企画・マネジメント能力の修得の機会を設けた。RAを雇用するにあたっては、英語による書面審査と面接を行い、RAとしての能力の確認やRAの役割を十分に理解させた上で雇用した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

国際ジャーナル刊行による情報発信に加え、アジア都市研究の一線で活躍する研究者、実務者を招聘し、今後の教育研究や国際連携の方向性を討議する国際シンポジウムを開催しながら、ハビタット工学教育の創成と継続的発展のための学術情報を国際的に共有した。このことによって、ハビタット工学の国際的・学際的な教育研究を支援する国際学会ISHED(International Society of Habitat Engineering and Design)を、アジア主要大学の代表者や国連ハビタット福岡本部の協力のもと、平成23年10月に設立することができた。